

◆◇◆◇◆ 第3章 教養総合科目 ◆◇◆◇◆

I. 教養総合科目の目的

現代世界は、グローバル化の進展という均質化を指向する世界と、一方で文化の多様化・複雑化を指向する世界とが重なって存在している。このような世界で、人として生きていくための知識と技能を身につけ、豊かな人間性を養うため、本学は教養総合科目を開設している。ここでは学問の基本的な知識を獲得するだけに留まらず、様々な場面に応じた知識の活用能力や自己表現能力を高め、多様な視点から物事をとらえていく姿勢を培うことを目指している。このことは本学の理念・目的である、世界に開かれた日本文化の創造と形成に総合的に寄与し、日本文化を世界に発信できる有用な人材を、育成することを可能にするものである。これらを達成するため、教養総合科目では導入基礎演習科目からなる「導入科目」、神道科目、言語科目、スポーツ・身体文化科目からなる「基礎科目群」、テーマ別講義科目、総合講座、総合演習、キャリアデザイン科目からなる「人間総合科目群」、コンピュータ技術演習の「情報処理科目群」及び発展言語科目、発展スポーツ・身体文化科目、留学等による単位認定からなる「応用科目群」が設定されている。

II. 教養総合科目の構成と履修方法

1. 教養総合科目の構成

科 目		必修単位	履 修 方 法	
教 養 総 合 科 目	導入科目	導 入 基 礎 演 習	2 必修	
	基礎科目群	神 道 科 目		2 1科目2単位以上必修
		言語科目	必 修 外 国 語	8 英語
			選 択 外 国 語	
			基 礎 日 本 語	選択
		ス ポ ー ツ ・ 身 体 文 化 科 目	2 必修	
	人間総合科目群	テ ー マ 別 講 義 科 目		選択
		総 合 講 座 (集 団 宿 泊 研 修)		2 1科目2単位必修
		総 合 演 習 科 目		選択 (初等教育・健康体育学科のみ)
	情報処理科目群	コ ン プ ュ ー タ 技 術 演 習 科 目		選択
	応科目群	発 展 言 語 科 目		選択
		発 展 ス ポ ー ツ ・ 身 体 文 化 科 目		選択
		単 位 互 換 ・ 留 学 等 に よ る 単 位 認 定		単位互換・留学等による単位認定は12単位を上限とする
	合 計		26 以上	

2. 教養総合科目として算入されない科目について

下記の授業科目を履修した場合には、教養総合科目としては算入されないので、留意すること。
ただし、卒業要件（124単位）の中には算入される。

		科目区分	授業科目名	単位数	
教 養 総 合 科 目	基 礎 科目群	神 道 科 目	神道と生活	2	
			神道と現代社会	2	
	人 間 総 合 科 目 群	テ	Ⅰ 生活と文化の理解	世界の文化と生活	2
				比較文化・比較文学	2
		Ⅱ 人間と社会の理解	世界の市民と社会	2	
			社会構造と市民	2	
		Ⅲ 心性と思想の理解	思想と文化	2	
			地球と環境	2	
		マ	Ⅳ 人間と環境・技術と理解	人間と技術	2
				総合講座科目	総合講座（集団宿泊研修以外）
		総合演習科目 （子ども支援学科のみ）	総合演習、総合演習（国際交流）	2	
		キ ャ リ ア デ ザ イ ン 科 目	キ ャ リ ア デ ザ イ ン 科 目	キャリアデザイン	2
	インターンシップⅠ			2	
	インターンシップⅡ			1 or 2	
	応 用 科 目 群	発 展 言 語 科 目	ドイツ語・フランス語・中国語・韓国語 基礎Ⅰおよび同Ⅱ以外の外国語科目	各 1	

Ⅲ. 教養総合科目の具体的内容と履修上の注意

1. 導入科目「導入基礎演習」

- 1) 導入科目として本学の建学の精神及び大学での学修方法や生活指導上の基礎的事項について理解を深めることを第一の目的とする。
- 2) 開講学年は1年次、半期2単位の科目

2. 基礎科目群

基礎科目群は、日本文化の根底にある神道を理解する神道科目、人間を人間たらしめている言語を習得する言語科目、自分自身のからだの理解とスポーツ技能を高めるスポーツ・身体文化科目から構成されている。この科目群は学部・学科に関係なく、國學院大學で学んでいく学生にとって最も基本となる科目群である。

(1) 神道科目

半期2単位（必修）

國學院大學の建学の精神に触れ、日本固有の文化や国柄あるいは根底にある神道を理解し、さらには現代社会の解明や大学での個々の学修に臨む基礎を身につけることを目的としている。

必修科目の「神道と文化」は、1年次から4年次の間に半期2単位を必ず修得しなければならない。

なお、開講されている何れの曜時でも自由に受講できるが、2単位を超えて修得することはできない。

選択科目の「神道と生活」、「神道と現代社会」に配置された講義題目（詳細は時間割表参照）は、各自が自由に選択して修得することができるが、修得した場合は教養総合科目としては算入されないが、卒業要件（124単位）の中に算入される。（P29参照）。

注) 選択科目の「神道と生活〇〇〇」「神道と現代社会〇〇〇」に配置されている講義科目で「〇〇〇」の数字が異なれば同じ「神道と生活」「神道と現代社会」でも「異なる科目」として受講することができる

(2) 言語科目（8単位必修）

人間にとって必須のコミュニケーションツールである言語を、日本語以外の言語を習得することで、海外における情報収集能力と、海外へ向けての情報発信能力を高め、同時に、私たちを取り巻く世界と日本とを客観的に観察する視点の獲得を目的としている。

「必修外国語」は、下記に従い受講すること。すべて半期1単位で開講される。

①必修外国語 (全学部・全学科対象)

- 1) 全学科の学生が1、2年次に配置された英語を受講しなければならない。(各科目・半期・1単位)

注1) 各科目の履修方法については下の「必修外国語の履修図」を参照すること。

注2) 外国人留学生については、「外国人留学生の外国語科目の履修について」に別途定める。

- 2) 卒業要件単位は **8科目8単位**、科目名、配当学年は以下のとおりとする。

学 年	学 科	授業科目名	受講時期・科目数
1 年次	全 学 科	First Year English I	前期・1
		First Year English II	後期・1
		English I (R&W)/(L&W)	前期・1 後期・1
2 年次	全 学 科	English II (R&W)/(L&W)/(S&W)	前期・1 後期・1
		English II (School English I)	前期・1
	初等教育学科 子ども支援学科	English II (School English II)	後期・1
		English II (Sports English I)	前期・1
	健康体育学科	English II (Sports English II)	後期・1
合 計	全学科8科目8単位		

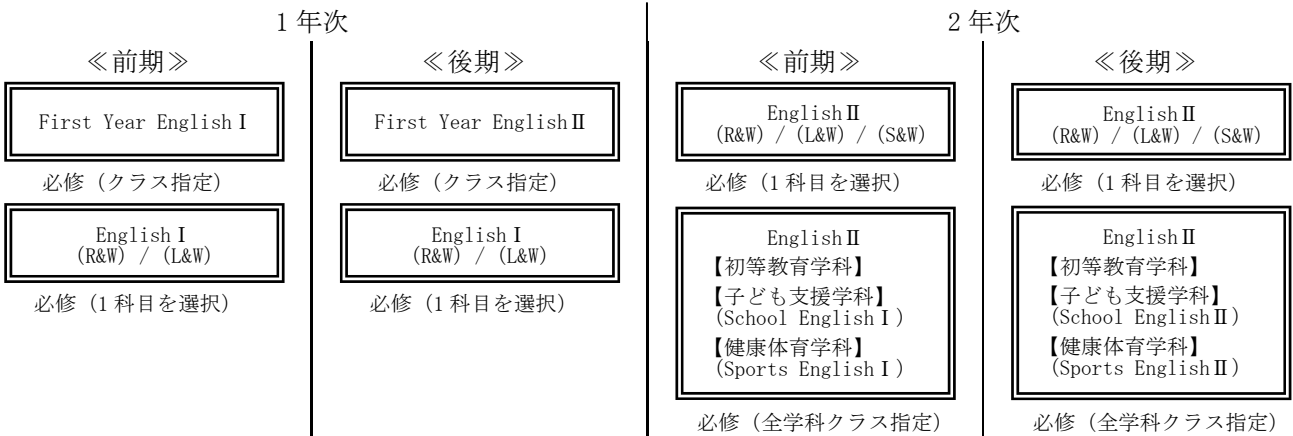
3) English I・II の略称が示す内容は以下のとおり。各自の希望により選択し受講する。

授 業 科 目 名	内 容
English I・II (R&W)	Reading & Writing
English I・II (L&W)	Listening & Writing
English II (S&W)	Speaking & Writing

注) 卒業要件単位数まで、同じ科目を複数受講することができる。

◆必修外国語の履修図 * 全学科対象

【全学科】



③選択外国語

- 1) [ドイツ語・フランス語・中国語・韓国語・英語] のうちより、各自が自由に選択して受講できる。(各科目・半期・1 単位)
 科目名とレベルは以下のとおりとする。

レベル	授業科目名	開講時期
1 年目レベル	ドイツ語/フランス語/中国語/韓国語基礎 I	前期
	ドイツ語/フランス語/中国語/韓国語基礎 II	後期
	ドイツ語/フランス語/中国語/韓国語の表現基礎 I	前期
	ドイツ語/フランス語/中国語/韓国語の表現基礎 II	後期
	ドイツ語/フランス語/中国語入門	前後
	First Year English I (中国文学科のみ)	前期
	First Year English II (中国文学科のみ)	後期
2 年目レベル	ドイツ語/フランス語/中国語/韓国語中級 I	前期
	ドイツ語/フランス語/中国語/韓国語中級 II	後期
	ドイツ語/フランス語/中国語/韓国語の表現中級 I	前期
	ドイツ語/フランス語/中国語/韓国語の表現中級 II	後期
3 年目レベル	ドイツ語/フランス語/中国語上級 I	前期
	ドイツ語/フランス語/中国語上級 II	後期

- 2) 選択外国語の受講にあたっては、シラバス及び次ページの「選択外国語の履修図」を参照し、各自のレベルにあった内容の科目を選択すること。
- ~~2) ドイツ語・フランス語・中国語・韓国語基礎 I および同 II は 1 年次から履修可。~~
- 3) ドイツ語・フランス語・中国語・韓国語基礎 I および同 II を修得した場合は、教養総合科目の卒業要件単位 26 単位以上のなかに算入される。
- 4) 3) の科目以外を修得した場合は、教養総合科目としては算入されないの、留意すること。ただし、卒業要件 (124 単位) の中には算入される (P28 参照)。
- 5) **すべて (1 年目レベル~3 年目レベル) の科目は、1 年次から履修可。**

◆選択外国語の履修図

【全学科】

1年目レベル		2年目レベル		3年目レベル	
《前期》	《後期》	《前期》	《後期》	《前期》	《後期》
ドイツ語 フランス語 中国語 韓国語基礎 I	ドイツ語 フランス語 中国語 韓国語基礎 II	ドイツ語 フランス語 中国語 韓国語中級 I	ドイツ語 フランス語 中国語 韓国語中級 II	ドイツ語 フランス語 中国語 上級 I	ドイツ語 フランス語 中国語 上級 II
ドイツ語 フランス語 中国語 韓国語 の表現基礎 I	ドイツ語 フランス語 中国語 韓国語 の表現基礎 II	ドイツ語 フランス語 中国語 韓国語 の表現中級 I	ドイツ語 フランス語 中国語 韓国語 の表現中級 II		
ドイツ語 フランス語 中国語入門	ドイツ語 フランス語 中国語入門				

◆外国人留学生の外国語科目の履修図

*外国人留学生の外国語の履修について

- 外国人留学生は、必修外国語〔日本語〕と、入学手続時に選択した選択必修外国語を、受講しなければならない。（各科目・半期・1単位）
- 必修外国語〔日本語〕については、全学科とも、**6科目6単位**が必修となる。
- 選択必修外国語については、以下のとおりとする。

【全学科】

〔日本語〕（6単位）・〔英語〕（6単位）のいずれか一つを選択し、必修とする。

- その他、自由に選択できる選択外国語については、前ページを参照すること。
- 注1) 各学科とも入学時に選択した言語を変更することはできない。
注2) 履修科目、方法については下記を参照すること。

【必修外国語】

1年次		2年次	
《前期》	《後期》	《前期》	《後期》
日本語（読解Ⅰ）	日本語（読解Ⅱ）	日本語（読解Ⅲ）	日本語（読解Ⅳ）
日本語（表現Ⅰ）	日本語（表現Ⅱ）		

【選択必修外国語】

1年次		2年次	
《前期》	《後期》	《前期》	《後期》
日本語（古典語入門Ⅰ）	日本語（古典語入門Ⅱ）	日本語（聴解Ⅲ）	日本語（聴解Ⅳ）
日本語（聴解Ⅰ）	日本語（聴解Ⅱ）		
First Year English I	First Year English II	English II (R&W) / (L&W) / (S&W)	English II (R&W) / (L&W) / (S&W)
English I (R&W) / (L&W)	English I (R&W) / (L&W)		

- ①…選択必修外国語を日本語とする場合。
②…選択必修外国語を英語とする場合。

④基礎日本語

現代の日本において生きるために必要な日本語（国語）能力を備えるため、基礎的な日本語能力を養い、資料の調べ方、論文の読み方、レジュメの書き方、口頭発表の仕方、レポート・論文の書き方、さらには、文章表現など日本語そのものについて学ぶことを目的としている。

授 業 科 目 名	備 考
基礎日本語（リテラシー）	基礎的な日本語能力を養うクラス
基礎日本語（文章表現）	わかりやすい文章作成能力を養うクラス

注1) 開講学年は1年次、半期2単位の科目であり、重複して履修できるが、同一時期に登録できるのは1科目とする。

注2) （文章表現）は、3年次以降は登録できないものとする。

注3) （リテラシー）は、前期については、入学時に実施した「入学時学力診断テスト（国語）」の結果により、一定の成績に満たない者は履修が義務づけられる。後期については、それ以外の者も履修できる。なお、この科目の履修は1年次の前期及び後期のみとする。

(3) スポーツ・身体文化科目（2単位必修）

人間の体や精神の仕組みを理解するとともに、健康の維持に対してスポーツの果たす役割を確認し、さらにスポーツ技能を高めていく実践等を通して、生涯にわたって健康的な生活を維持していくための基礎的な能力を身につける科目である。

スポーツ・身体文化Ⅰ

- 1) 1年次に「スポーツ・身体文化ⅠA（前期）、ⅠB（後期）」を履修する。（各科目・半期・1単位）
- 2) 「スポーツ・身体文化ⅠA・ⅠB」は原則として指定の曜日時限で受講する。毎週1回（2時間）前期または後期をもって1単位とし、単位認定の基礎条件として、各学期10回以上の出席が要求される。

注1) 「スポーツ・身体文化ⅠA・ⅠB」の履修方法は当該年度の指示に従うこと。

注2) 「スポーツ・身体文化ⅠA・ⅠB」を1年次に修得できなかった場合は、2年次（ⅠAは前期、ⅠBは後期）に再履修することとなる。その場合の履修方法は当該年度の指示に従うこと。

(コントロールクラス)

- 1) 「スポーツ・身体文化ⅠA・ⅠB」の中には、心身上の事由のため履修が困難な学生を対象とした「コントロールクラス」が設けられている。当該学生は、保健室発行の診断書を学期最初のコントロールクラス授業時に担当教員へ提出し、受講に関する指示を受けること。
- 2) 「スポーツ・身体文化ⅠA・ⅠB」の中には、年齢などの事由のため履修が困難と考えられる社会人学生を対象とした「社会人コントロールクラス」が設けられている。当該学生は、たまプラーザ事務課または、教務課へ出向き受講に関する指示を受けること。

3. 人間総合科目群

個々のテーマに基づく授業で、考察する過程において、さまざまな学問の手法や思考形式を具体的に提供し、学生に多角的に考える視点と学問の方法を理解・体験させる科目である。

(1) テーマ別講義科目（選択）

- 1) 学際的な観点から個別的・具体的に諸問題を考える中で、「ものの見方・考え方」についての多様な視点を与え、さらに発想の転換の契機を与えることを目的とし、半期2単位で開講される。
- 2) テーマ別講義科目として開設されるテーマ・授業科目は表1のとおりである。

表1
テーマと授業科目

テーマ	授業科目名	単位数	備考
Ⅰ 生活と文化の理解	歴史のなかの人間	2	
	民衆文化と生活	2	
	世界の文化と生活	2	*
	比較文化・比較文学	2	*
	言語と文化	2	
Ⅱ 人間と社会の理解	社会のなかの人間	2	
	社会と歴史	2	
	世界の市民と社会	2	*
	社会構造と市民	2	*
	法学（日本国憲法）	2	
Ⅲ 心性と思想の理解	芸術と人間	2	
	思想と文化	2	*
	知識と感性	2	
	言語と思想	2	
Ⅳ 人間と環境・技術の理解	地球と環境	2	*
	人間と環境	2	
	人間と自然	2	
	情報の科学	2	
	人間と技術	2	*
テーマ外	日本事情Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	各2	留学生科目・留学生は必修

注) 講義題目は「時間割表」を参照のこと。

履修上の注意

- 1) これらの講義題目は、自らの興味と関心に基づいて履修し、教養総合科目の卒業要件単位26単位以上に算入することができる。
- 2) 上表の備考欄の「*」の授業科目は教養総合科目としては算入されないため、留意すること。ただし、卒業要件（124単位）の中には算入される。（P34参照）
- 3) 外国人留学生は「日本事情Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」各2単位合計6単位を修得しなければならない。

(2-1) 総合講座（集団宿泊研修）

- 1) 人間開発学部生の必修科目であり、他学部生は履修することができない。
- 2) 学際的な性格をもつ科目であり、人間関係構築力、課題問題能力、表現活動能力の育成という人間力育成における基盤的能力開発を目的とする。
- 3) 開講学年は1年次、半期2単位の科目で、開講形態はサマーセッションとして、3泊4日程度の集団宿泊体験で実施する。

(2-2) 総合講座（集団宿泊研修以外）

- 1) 複数の教員が共通のテーマを設定して担当する科目を「総合講座」とする。
- 2) 総合講座は、半期2単位の選択科目として開講される。

- 3) 総合講座は、共通のテーマについて、複数の学問領域から接近することを目的とする、学際的な性格を持つ科目である。
- 4) 設定されるテーマは、年度ごとに異なる場合がある。

注1) 教養総合科目としては算入されないので、留意すること。ただし、卒業要件（124単位）の中には算入される。（P29参照）

注2) テーマが異なる場合は、複数の総合講座を履修することができる。

(3) 総合演習

- 1) 総合演習は、各学部・学科の専門教育科目の修得をふまえ、学部・学科をこえた学際的なテーマについて、より総合的かつ深く学ぶことを目的とする。

- 2) 総合演習、総合演習（国際交流）の2科目があり、下記のとおり履修規程が異なるので注意すること。

注1) 総合演習は、2年次開講とし、各学年1科目2単位まで履修でき、3科目6単位まで卒業単位に参入できる。ただし、テーマ・担当教員の異なるものに限る。

注2) 総合演習（国際交流）は、2年次開講とし、同一年度2科目まで履修でき、卒業単位としては4科目8単位まで参入できる。

注3) 子ども支援学科は、教養総合科目としては算入されないので、留意すること。ただし、卒業要件（124単位）の中には算入される。（P29参照）

(4) キャリアデザイン科目

- 1) 「生きること・働くこと」の意味、社会の変化と社会が求めている「人材」への理解、「自分発見」の重要性を学び、キャリア形成を考える際の問題提起をすることを目的とする。

注1) 教養総合科目としては算入されないので、留意すること。ただし、卒業要件（124単位）の中には算入される。（P29参照）

- 2) 「キャリアデザイン」、「インターンシップⅠ（企業・公務員）（教職）」、「インターンシップⅡ」の3科目があり、それぞれ下記のとおり履修規程が異なるので注意すること。

注1) キャリアデザインは、1年次開講とし、半期2単位とする。（ ）内が異なれば複数受講可となるが、同一内容・テーマは複数受講できない。

注2) インターンシップⅠは、半期2単位の科目とするが、4年次は受講できない。「インターンシップⅡ」は、現場で実習する講座であり、「インターンシップⅠ」を修得済または履修していることが条件となる。「インターンシップⅡ」（2・3年生開講科目で、1・4年生は受講不可）は受講にあたり、所定の手続きが必要となるので詳細はたまプラーザ事務課で確認すること。

※「インターンシップⅡ」は、年次別履修制限の単位外として扱われる。

4. 情報処理科目群

(1) コンピュータ技術演習

この科目は、コンピュータ活用技術を身に付けることを目的とする。コンピュータの「方法とスキル」を修得することにより、基本的素養を身につけ、情報活用能力を自ら発展させることができるようになるものである。

授業科目名	授業内容	備考
コンピュータ技術演習	活用入門	初心者向け入門授業
	メディア発信	プレゼンテーション、ホームページ作成
	データ処理	Excelを用いたデータ処理、グラフ作成
	シミュレーション	プログラミング、理論の視覚化技術

- 1) 半期2単位の選択科目である。

注) 教員免許状取得に必要な「情報機器の操作」として充当することができる。教職希望者は必修。

- 2) 各自の希望により1年次から履修することができるが、「活用入門」以外の科目では、基礎的内容を授業時に行わないので、履修にあたっては注意すること。
- 3) 同一年度に、2演習4単位を超えて履修することはできない。
- 4) コンピュータ教室では台数に限りがあるため、事前登録により受講者数制限を行う。

5. 応用科目群

多様な外国語の履修、より高度な外国語能力や資格の獲得、留学等による実践的外国語能力の向上だけでなく、スポーツを実践的に深めるための科目群である。さらに、この科目群は多様な視点を育成するため、他大学における履修も可能にし、学生が自由に選択できる。

(1) 発展言語科目

基礎科目群で履修した外国語科目を基礎として、実用性や応用力の向上をめざした科目を履修することにより、より発展的な言語能力の獲得を目指すことを目的としている。外国語科目については、すべて半期1単位で開講される。科目名、受講可能年次等は以下のとおり[教養総合科目の卒業要件単位26単位以上に算入されるのは「留学英語」「留学中国語」のみ。それ以外の科目は教養総合科目としては算入されないのので、留意すること。ただし、卒業要件(124単位)の中には算入される。(P29参照)]。

(1～4年次)

授業科目名	備考
ロシア語基礎Ⅰ・Ⅱ	具体的な内容についてはシラバスを参照
ロシア語中級Ⅰ・Ⅱ	
スペイン語基礎Ⅰ・Ⅱ	
スペイン語中級Ⅰ・Ⅱ	
ポルトガル語基礎Ⅰ・Ⅱ	
ポルトガル語中級Ⅰ・Ⅱ	
イタリア語基礎Ⅰ・Ⅱ	
イタリア語中級Ⅰ・Ⅱ	

(1～4年次共通)

授業科目名	備考	
Basic English	英語リテラシー	英語の初歩を学び直すクラス
	はじめての英語①・②	英語未修の外国人留学生のみ対象

注1) 「英語リテラシー」開講学年は1年次、半期1単位の科目である。

注2) 「英語リテラシー」は、前期については、入学時に実施した「入学時学力診断テスト(英語)」の結果により、一定の成績に満たない者は履修が義務づけられる。後期については、それ以外の者も履修できる。なお、この科目の履修は1年次の前期及び後期のみとする。

(1～4年次共通)

授業科目名	備考	
Advanced English	資格英語	担当者により難易度が異なるため、シラバスで要確認
	コミュニケーション	英語でのコミュニケーション方法を学ぶクラス
	国際コミュニケーション	選抜試験あり。海外留学を準備する人にも適当なコース

注) 開講学年は1年次、半期1単位の科目である。「資格英語」「コミュニケーション」「国際コミュニケーション」は、1年次から4年次まで毎年履修することができ、受講数に制限はない。

(1～4年次共通)

授業科目名	備考
資格ドイツ語/フランス語/中国語	具体的な内容についてはシラバス参照

注) 半期1単位の科目で、1年次から4年次にわたって毎年履修でき、受講数に上限はない。同一時期に受講できるのは1科目までとする。

(1～4年次)

授業科目	留学先	単位数	備考
留学英語	マニトバ大学 モナシユ大学 セント・マイケルズ・カレッジ	各2単位	それぞれの大学で短期留学に参加し、単位の認定を希望する者は、決められた時期にこの科目の登録を申し出なければならない。なお、本学において指導は行いが、授業は行わない。
留学中国語	南開大學 復旦大學	各2単位	

注1) 留学先が異なれば、留学には複数回参加できる。

注2) 「留学英語」および「留学中国語」として、単位が認定されるのは同一言語内において2科目4単位までである。

~~注3) 1年次から参加することは可能であるが、単位の認定に関しては3年次からである。~~

(1～4年次)

授業科目名	備考
Advanced English	上級英語
	英語応用能力を高めるためのクラス

注) 半期1単位の科目で、1～4年次にわたって毎年履修することができ、受講数に上限はない。同一科目であっても重複して受講できる。

(2) 発展スポーツ ・身体文化科目

スポーツ・身体文化Ⅱは、科学的および文化的側面から、スポーツや健康・体力に関する各人の興味と関心とを実践的に、より深く掘り下げることを目的とする選択科目（応用発展科目）である。2年次以降に履修することができる。毎週1回（2時間）前期または後期をもって1単位とし、単位認定の基礎条件として、10回以上の出席が要求される。

注1) スポーツ・身体文化Ⅱは同じ種目であっても複数受講できる。
ただし、卒業に要する単位に算入できるのは8科目8単位までとする。

(3) 単位認定科目

1) TOEIC・TOEFLの単位認定

TOEIC・TOEFLにおいて所定の成績を修めた者は、以下の科目の単位を認定する。

検定・資格	認定科目名	単位数	評価
TOEIC 500点以上または TOEFL 50点以上 (iBT) または TOEFL463点以上 (IPT) を取得	英語検定試験 (中級)	2単位	N (認定)
TOEIC 650点以上または TOEFL 70点以上 (iBT) または TOEFL523点以上 (IPT) を取得	英語検定試験 (上級)	2単位	N (認定)

注1) 上記2科目の単位を希望する者は、前期・後期履修登録期間に教務課に公式認定証とそのコピーを持参し、コピーを教務課に提出すること。

注2) 上記2科目は、それぞれ単位取得できるのは、1回のみである。

注3) 上記2科目のうち、「英語検定試験 (上級)」の認定基準を満たしている者は「英語検定試験 (中級)」の認定基準も満たしていることになるので同時に2科目4単位が認定される。ただし、すでに「英語検定試験 (中級)」の単位を修得済の者は、重複して取得することは出来ない。

2) 単位互換制度によって修得した単位は12単位までを教養総合科目の卒業要件単位26単位以上のうちに算入することができる。